

グリーンインフラ研ニュース No.3

グリーンインフラ研究室の学生が、第22回まちづくり・都市デザイン競技で、「まちづくり月間全国行事实行委員会会長賞」を受賞しました。

発行 2020年 7月 22日

中央大学研究開発機構
グリーンインフラ研究室
代表 石川 幹子

〒112 - 8551
東京都文京区春日 1-13-27
3号館 31208号室

「まちづくり・都市デザイン競技」は、「まちづくり月間全国的行事实行委員会」と「(公財)都市づくりパブリックデザインセンター (<https://www.udc.or.jp/>)」が主催し、国土交通省が後援を行っている、日本で唯一の競技設計で極めてレベルが高く、この間、日本のまちづくりを牽引してきました。その主旨は、以下の通りです。

「これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。現在の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されています。こうしたまちづくりの課題を踏まえ、この「まちづくり・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的としています。」(<https://www.udc.or.jp/publics/index/365/>)

2019年度は、第22回目となり、愛知県岡崎市の「岡崎駅周辺地区」(約80ha)を対象として、実施されました。全国から54作品の応募があり、中央大学理工学部人間総合理工学科の学生の作品が、「まちづくり月間全国的行事实行委員会会長賞」を受賞いたしました。

作品名 時空を超える 歴史・みらい都市 岡崎 ～みんな育てる「まちなか commons」～

受賞者

横山 紗英/ 川島 和馬/ 大木 茉由/ 峯田 鈴音/ 長塚 瑞穂/ 飯田 珠実/
伊藤 直也/ 韓 焜明/ 小泉 文佳/ 中山 知香/ 熊谷 春輝

審査講評

- アーバンデザインの戦略をバランス良く示した好感の持てる提案。岡崎城への眺望に対する配慮もなされている。“まちなか commons” という、新しい都市デザインの手法の提案が高く評価された。公民連携の具体的手法として今後につながるもの。立体都市公園制度を活用して、岡崎城の景観保全に配慮した未来像かつ提案がなされている。
- 〈公〉と〈知〉の中間領域〈共〉空間 (commons) として注目し、まちの“居場所”づくりに仕立て上げネットワーク化している〈作法〉が評価された。21世紀のまちづくりは〈建築〉づくりではなく、“〈空地〉こそ最大の価値”という視点にたってまちなか再生を行っていくことが極めて大事であることを市民と共有しながら具体的なまち再生につなげてほしい。
- 5つの提案が具体的な進め方も含めて提案されており、全体としてうまくまとめられている。空き家空き地問題に対し、commonsというわかりやすいテーマを取り上げ、わかりやすくまとめた点を評価する。
- 建造物の高さを抑制し城と川の眺望を守ることが地域全体の価値を高めるという発想に共感が持てる。



横山 紗英



飯田 珠美



伊藤 直也



韓 焜明



小泉 文佳



中山 知香



熊谷 春輝

<受賞作品>

時空を超える
歴史・みらい都市 岡崎
 まちなか commons
 歴史を踏まえた固有の機能を有し、居心地良く、誇りの持てる“みんなの空間”

まちの未来像

1. 大地の恵みに満たされたまち
2. 伝統に培われたグリエッタなまち
3. 人と人がつながる優しい居心地のよいまち

まちなか commons のデザイン

心のつながり “居心地の良い空間” をつくる

多様な機能をもった “まちにわ” をつくる

まちの中心で “開かれたセンター” をつくる

2020-2025 はじめの一歩

- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト

2030 commons つくり

- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト
- まちなか commons の基本コンセプト

2070 歴史・みらい都市 岡崎へ

開港場
 開港場跡地を再生する
 甲斐川
 甲斐川を再生する
 中央公園
 中央公園を再生する

2070年頃のまちの未来像



<作品の説明>

岡崎市は、徳川家康の生誕の地であり、乙川の形成した段丘崖の突端に築かれた岡崎城は、幾多の星霜を経て継承され、時空を超える輝きを放っています。

私たちは、この旧城下地区を、岡崎市の誇りとするコアとして位置づけ、「まちなか コモンズ」で創り出す、「歴史・みらい都市」を提案します。まちの将来像は、「大地の恵みに満たされ、伝統と創造の共存する、人と人がつながる優しいまち」です。

この実現にむけて次のプロジェクトを提案します。

提案 1. 乙川に豊かな自然環境を再生します。

提案 2. 岡崎城と城下地区をつなぐ岡崎セントラルパークを創り出していきます。

提案 3. まちなかには、にぎわいのある多様な拠点を、みんなの力で生み出し、歴史と未来を巡る回遊ルートをつくり、歩きたく なるまちを実現していきます。

提案 4. 東岡崎駅前地区には、ステーション・フロントとして情報センターを整備し、岡崎市の 顔となる多世代居住の新しいアーバン・コンプレックスを創り出していきます。

提案 5. まちなかコモンズを実現していくために、公民連携の「まちなかコモンズ協議会」をつくります。この協議会の特色は、これまでの NPO、自治会、ボランティアにとどまらず、事業性を兼ね備えた「事業者市民」を育て、まちの活力の基盤を 耕すことにあります。